

外部有識者からの評価とアドバイスの要旨について

4年間を通した議会活動の評価と次期改選後議会への提言を行うに当たって、外部有識者（廣瀬克哉法政大学副学長）から、議会活動計画の仕組みや議会活動計画に基づく取組について評価とアドバイスをいただきました。

【評価とアドバイスの要旨】

○議会活動計画の仕組み等に対する評価

- ・ 4年間を通した議会活動の計画を立て、それを実行していったという実績は、評価できる。
- ・ 4年間の取組を一覧できるように整理することは必要であり、何を実行したかを公表する観点では期待水準を満たしている。
- ・ 評価することによって県民に何を伝えることができているかという観点からは、不十分な点がある。
- ・ 取組実績による評価だけでは、取組内容の期待水準を満たせたかどうかや、議会での審議等によって、県民にとってどのようなメリットがあったのかが読み取り難い。

○議会活動計画の仕組み等に対するアドバイス

- ・ 評価の最終的な読者は県民であり、県民にメッセージを伝える手段として評価制度を活用することが必要。
- ・ 外形的な活動実績だけを評価指標とすることは本質的でない。そうならないように、議会活動計画の基本方針のような理念を示した上で、その理念をブレイクダウンした評価指標により評価を行い、改善につなげていくことができるフォーマットづくりが必要。
- ・ 多くの県民にとっては、何のために議会活動が行われているのか自明でない。議会活動の目的に照らした評価を行うことが必要であり、評価項目が県民にとって何を期待されている項目かという、県民の観点や評価の視点を明文化することが重要。
- ・ 県民の観点や評価の視点を明文化し、一定のフォーマットを作成することは、誰が外部評価者になっても共通性のある評価ができることに資するものであり、評価制度自体が議会改革のエンジンとなり得る。
- ・ 評価の基準等を示した上で評価をし、県民に公表していかないと、評点やその推移の意味が見えてこないため、基準等のない（委員会の）評点の仕組みは見直す必要があると考える。